

社員の皆様へのメッセージ

株式会社イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2013. 4
No.236

2013年度新入社員諸君

イナテック入社おめでとう

新入社員の方々への言葉「小さな人生論」から

- ・ 大切なのは与えられた縁をどう受け止めるかである。そしていかに勝因を創るかである。よき人に交わり、よい縁をさらに発展させ心を養い、真実の学びを学び続けていく人生を心掛けたいものである。

・ 「どんな仕事でも徹すれば、その仕事を心に無限と言つていいほど広がっていくものだ」
……松下幸之助

「仕事は決して手を抜いてはならない」

「人生は投じたものしか返ってこない」

「成功不成功は能力ではなく真剣如何である」

・ 与えられた環境の中でひたすら生きる者は美しい。

以上の言葉をプレゼントします。そして『初給与』の中から必ず両親に感謝のしるしとして贈り物をしてください。

今ここに、ここまで育てていただいたのは両親がいるからで、両親がいなかったら貴方はこの世に存在しないわけです。これからは一人立ちして両親に恩返しする番なんです。

TPM優秀賞 カテゴリーA

第一次審査結果

『合格です』

皆さん本当にありがとうございます。ここまで活動の成果を出せたのも皆さんの

協力のお陰です。ありがとうございました。

合掌

しかし実際の審査員の先生の評価は「良くやりました。一応合格です。」「第二次審査までに完成させてください」とのことでした。

つまり、

一、イナテックTOPから課レベルまでと分科会の活動の筋（ストーリー）がバラバラでまだ分かっていない。

二、“原因”が『現象系』であり、要因系で把握されていない。

三、一所懸命活動しているけれど、効果が出ていないんです。だからやりがいにつながらないんです。

というご講評でした。

我社の弱点と問題点を一瞬で見抜いていただきました。ありがたい審査でした。

イナテックの弱点・問題点がはっきりと見えました。

9月の第2次審査に向け、ベクトルを合わせ頑張りましょう。よろしくお願いいたします。

中国から飛来するPM2.5よりも 「受動喫煙の影響の方が大きい」

こんな見出しで、2013年3月10日の日経に載っていた記事を紹介します。

「禁煙席のない居酒屋、北京並み」

自由に喫煙できる居酒屋のPM2.5の濃度は

空気1立方メートルあたり56万8270グラム

中国政府が「最悪」と評した時の北京市の大気とほぼ同じ水準だ。(禁煙学会に所属する医師たちは2006年頃からたばこのPM2.5の問題を扱ってきた)

産業医科大学の教授は「屋外の汚染を怖れるのなら、喫煙可能な喫茶店や飲食店を怖がってほしい」と話す。

空気清浄機を使っても、たばこのPM2.5を取り除くのは難しい。ベランダなどでたばこを吸う「ホタル族」は少なくないが、PM2.5はサッシの隙間から入り込む他、呼気に含まれたり、衣服に付着したりするために、室内に持ち込んでしまうという。

問題は大気中に漂うPM2.5よりもたばこの煙の方が有害性が高いことだ。

様々な調査から「受動喫煙による死亡リスクはPM2.5の値よりもはるかに高い。」と教授は強調する。

完全分煙にするか、室内を全面禁煙にしないと効果は薄い。国立がんセンターの推定では、受動喫煙で死亡する人は年間6800人に達する。

さあ皆さん、たばこはやめましょう。貴方だけでなく、隣の人に悪影響があるのがお分かり頂けたと思います。

参考までに

『たばこによる身近な環境のPM2.5濃度』

環境省が定めた外出禁止の目安	70P
完全には分煙されていない居酒屋	320P
ひどい時の北京市の濃度	400P
自由に喫煙できる居酒屋	560P
車内で一人が喫煙した時	1000P